

執行役専務
市場事業部門長

永田 有広

事業部門の戦略

市場事業部門

マーケットリスクのプロフェッショナルとして、自らのリスクテイクを深化させるとともに、お客さまに対して高い付加価値を持続的に提供していくことを目指しています。

市場事業部門実績

	2024年度	前年比 ^{*1}
業務粗利益	6,366億円	+906億円
経費	1,960億円	+204億円
ベース経費	1,135億円	+57億円
業務純益	4,745億円	+720億円
当期純利益	3,306億円	+489億円
ROCE ¹ *2	20.9%	+1.9%
リスクアセット	6.5兆円	(0.9)兆円

*1 為替影響等調整後ベース *2 含む/バンキング勘定の金利リスク見合い

主要戦略

グローバル・マクロ型アプローチによる
ポートフォリオ運営

円・米ドルのプロダクトを軸とした
Fixed Income S&T・FX推進

グローバルALMのリスク耐性強化

市

場事業部門は、外国為替・デリバティブ・債券・株式等のトレーディングや、これら市場性商品を通じたソリューション提供をはじめ、バランスシートの流動性リスクや市場リスクを総合的に管理するALM業務を行っています。

2018年頃の米中関係悪化に加え、2020年からのコロナ禍で拍車がかかり、世界は分断の時代へと移行しました。長年デフレに苦しんできた日本でさえ、インフレが社会問題化する等、経済・金融市場は高インフレ・高ボラティリティの局面に入っており、グローバリゼーションの時代には経験したことのない新たなマーケット環境に置かれていると言えます。

このようなパラダイム・シフトによって引き起こされたマーケット環境では、従来の考え方が通用しなくなることも想定されますが、我々は柔軟かつダイナミックにポートフォリオを入れ替え、収益を積み上げてきました。

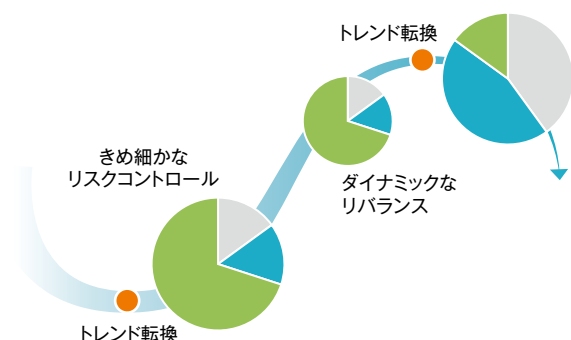
これは、強みであるトレーディング力、すなわち世の中の本質を見抜く力を絶えず磨き続けてきた成果だと考えてい

ます。事業部門の一人ひとりが日々起こるさまざまな事象を「3つのI」—Insight（洞察力）、Imagination（想像力）、Intelligence（情報力）で情報収集・分析し、徹底的に議論を重ね、そうして描いたシナリオをポジションとして表現し、その効果を検証する。こうした不断のサイクルによって、世の中の本質を見抜く力は養われます。

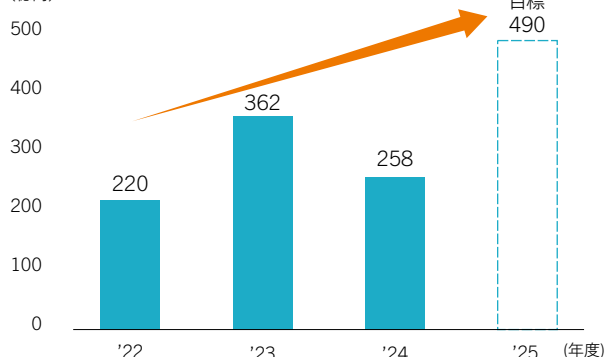
今後もこの強みを最大限に活かし、ポートフォリオ運営において収益機会を的確に捕捉していくとともに、S&Tや資金繰りの分野においても、お客さまへ最適なソリューションを提供していきます。

2025年度は中期経営計画の総仕上げの1年です。米国の関税措置を端緒とする不確実性の高い状況が続いていますが、このような時こそ我々の強みを発揮し、着実に計画を完遂させていきます。また、次期中期経営計画でのさらなる成長と飛躍に向けた施策も強力に推進し、お客さまとSMBCグループの成長に貢献することにこだわっていきます。

ポートフォリオ・リバランスのイメージ



海外証券業務純益（グローバル事業部門との共同KPI） （億円）



「3つのI」を実践し、 マーケットトレンドを捉えた 収益拡大に貢献する

三井住友銀行
市場運用部
株式運用グループ

部長代理
古村 卓也



チームに浸透している 「3つのI」の考え方

私は、2017年に三井住友銀行に入行し、支店での窓口業務や、法人営業を経て、2021年に市場事業部門に配属されました。現在は、市場運用部で株式運用業務に従事しています。

市場事業部門では、一人ひとりの相場観を周囲と共有し、皆で徹底的に議論を行う機会が非常に多いです。年次・階層・部署の境界はなく、若手が上司や他部署と直接議論を行うことが日常的な風景になっています。私も、自身の分析に基づいた相場観を部長席へ直接伝えることが多く、また、部門のエコノミストやストラテジストからの意見を頻繁にいただいています。私よりもはるかに長い時間マーケットと向き合ってきた先輩たちと議論を重ねることは、自身の相場観を磨き上げる上で非常に役立ちます。こうした環境が、積極的に相場観を共有し合う文化を醸成し、「3つのI」ーInsight（洞察力）、Imagination（想像力）、Intelligence（情報力）の浸透につながっており、我々の運用力の源泉になっていると実感しています。

私が所属する株式運用グループではインデックス投資を行っており、投資判断に際しては、マ

クロ経済や各国金融政策の分析だけでなく、インデックスを構成する個別銘柄の動向から実体経済への示唆を得ることが不可欠です。膨大な情報の中から核心となる情報を掴み、まだ経済指標等には表れていない実際の経済状況を徹底的に見極め、相場の先行きや将来起こり得るあらゆるリスクを想像する、という「3つのI」を常に意識しています。

相場の変化を見極め、 迅速に投資判断を行うために

世の中の情報の伝達速度が高まり、マーケット参加者は同じ情報を瞬時に受け取っています。こうした中、我々は、徹底的な議論を通じたスピーディな投資判断により、他社に先駆けた収益機会の捕捉やリスク回避を実現すべく努力しています。具体例としては、2024年8月の日経平均株価暴落時のオペレーションがありま

す。同年3月の日本銀行によるマイナス金利政策の解除以降、10年以上にわたる金融緩和からの大転換にもかかわらず、マーケット参加者は緩やかな金融緩和の縮小を見込んでいる状況でした。株価は高値を更新しており、ドル円も数十年ぶりの円安水準にありました。ただ、我々はマーケットの過熱感を感じ、短期的な調整の可能性に備えていました。結果的に、その後、日経平均株価が暴落した際も、損失を回避することができました。

国際政治や地政学リスクによる影響もあり、マーケットの不確実性は日に日に高まっています。このような環境下では、世界中で起こるさまざまな事象の本質を見抜く力が一層求められるため、広範な知識を継続的に蓄積し、絶えず深く考察する姿勢が重要です。今後も「3つのI」を大切にしながら、マーケットのプロフェッショナルとしての自己の成長を通じ、会社に貢献したいと思います。

